



今回は、「トイレのバリアフリー対策」についてのお話です。

清潔で快適な空間にしたいトイレ。リフォームの際は、プラス段差解消や手すりの設置など先々のことも考えてバリアフリーの事も一緒に考えたいところです。例えば、いつでも手すりを取り付けられるよう下地材を入れておく、段差解消や介助スペースの確保も検討するなど。今回は「トイレのバリアフリー対策」について考えてみます。

リフォーム時のトイレのバリアフリー対策

和式を洋式に	洋式(腰掛便器)の方が足腰に負担をかけず立ち座りや車椅子への移乗もスムーズです。
手すりの設置	便器への移乗には横型、立ち上がりには縦型が効果的なのでL型の手すりが安全・安心。今すぐ必要ない場合は、手すりが必要になりそうな箇所に下地材を入れておくといつでも取付けが可能。
段差解消	高齢者の家庭内事故死亡率No1が家の中での転倒だそうです。1cm、2cmの小さな段差もけっこう危ないもの。廊下との段差を解消されることをおすすめします。
ドアを引戸に	扉は「引き戸」に。引き戸に変更できない場合は必ず「扉は外開き」にします。内開きでは中で事故があった場合、人につかえて開かなくなる恐れが生じるからです。
断熱で寒さ対策	寒いトイレはヒートショックの原因になります。床・壁・天井をはがして張り替える際は断熱材をしっかりと入れ、窓は断熱サッシがおすすめです。
場所・広さ	寝室からの移動距離を短くする為に寝室と隣接するのがベスト。介助スペースを考えると下図の広さが理想的です。

【施工例】



施工前

施工後

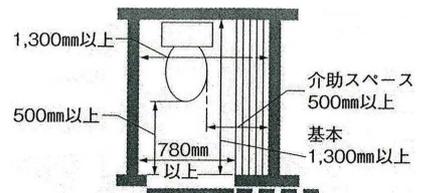
和式のトイレにアタッチメントを付けて腰掛けてお使いでしたが、立ち座りに負担があるということで洋式にリフォーム。ドアを引戸に変えたので出入りもラクに。手すりもついたので安心です。(U様邸)

開き戸は車椅子には大きな障害に。引戸にするにも引き込みスペースがない、そこで3枚連動引戸にしました。(H様邸)



施工前

施工後



↑理想的なトイレの広さ

閉めずすれのないようドアは半自動開閉タイプ(S様邸) ↓



お気軽にお問い合わせ下さい！

0120-312-341



エクステリア
住まいのお手伝い
事業部